

採血、採取のための注意点

生化学検査・血液検査ご依頼時

生活環境要因

- ①食事：食事の影響を受けて増加する代表的な検査項目は血糖、TG、インスリンである。
血糖値は食後約 30 分、TG 値は 2～3 時間でピークに達する。インスリンは血糖値の上昇と平行して分泌が増加する。一方、遊離脂肪酸値、IP 値は食後低下する代表的な検査項目である。
- ②飲酒：習慣的な飲酒は γ -GT、TG、ALT を上昇させる。
- ③喫煙：HGB、RBC、WBC、CEA を上昇させることがある。
- ④運動：過激な運動によって CK は上昇する。軽度であるが、AST、LD においても同様の傾向が認められる場合がある。
- ⑤薬剤：睡眠薬、向精神薬、解熱鎮痛薬などの服用により γ -GT が上昇することがある。
- ⑥妊娠：ALP、TC、TGなどは上昇し、Alb、Na、Kは低下する傾向が認められる。

検査結果の変動因子

遺伝的要因	①性差	男>女：尿酸、クレアチニン、CK、HGB、Fe 女>男：HDL-C、LH、FSH
	②人種差	欧米人>日本人：TC、尿酸
	③血液型	ALP アイソザイム
時間的要因	①加齢	新生児期：AST、ALT、LD、CK↑、AMY、TG、TC↓↓ 幼少児期：ALP、IP↑
	②日内変動	早朝高値：Fe、ACTH、コルチゾール 夜間高値：プロラクチン、成長ホルモン、TSH、ADH
生活環境要因	①食事	食後↑：グルコース、TG、インスリン 食後↓：遊離脂肪酸、IP
	②飲酒	γ -GT、TG、ALT、HDL-C、MCV↑
	③喫煙	HGB、RBC、WBC、CEA↑
	④運動	CK、LD、AST、乳酸↑、IP↑
	⑤薬剤	γ -GT、ALP↑
	⑥妊娠	尿酸、ALP、TC、LD、LAP、TG、AFP、CA125↑ 総蛋白、Alb、ChE、Fe、Ca、HGB↓
その他	①採血の体位	総蛋白、Alb、HGB、TC、Ca↑
	②長時間の駆血	K、Ca↑
	③月経周期	LH、FSH、プロラクチン、CA125などが変動

〈臨床検査法提要 改訂第 34 版〉

細菌検査ご依頼時

一般に検体は、発病(発熱)初期、抗菌薬投与前に採取すると培養の陽性率の向上が期待される。抗菌薬がすでに投与されている場合は投与を 24 時間以上中止して採取するか、投与を中止できない場合は抗菌薬の体内(血中)濃度が最も低い時期である次回投与の直前に採取するのが望ましい。

〈細菌検査検体取り扱いガイドライン 一般社団法人日本衛生検査所協会〉